

企画展

江戸から明治へ

4月20日(金)～5月27日(日)

江戸から明治にかけて、都市や生活文化は大きく変化していきました。歌川広重は幕末に絵師として活躍し、長く続いた江戸の風景を描きました。やがて「歌川広重」の名は二代、三代へと引き継がれ、当時の変わりゆく日本の姿を描きます。本展では、初代から三代までの名所絵や開化絵、当時の版本より、江戸から明治へどのように変化したのか辿ります。



「東京名所常盤橋内紙幣寮新建之図」三代歌川広重

企画展

小林清親と井上安治

5月31日(木)～7月8日(日)

小林清親(1847-1915)は光や影を西洋画の技法で捉えた「光線画」という新しい様式の風景画で人気を得ました。その後清親は「光線画」を弟子の井上安治(1864-1889)に引き継ぎ、江戸の風情を思わせる懐古的な風景画や風刺画の制作に移ります。本展では、清親の画業を辿るとともに、若くして亡くなった安治の代表作「東京真画名所図解」をご紹介します。



「両国花火之図」小林清親

特別展

大広重展
—肉筆浮世絵と錦絵の世界—

広重没後160年記念

前期:7月14日(土)～8月19日(日)
後期:8月23日(木)～9月24日(月祝)

名所絵の第一人者として知られる歌川広重は、生涯にわたり江戸や東海道をはじめとする日本各地の風景を描きました。その抒情溢れる作品は見る人の心を捉え、今なお高い人気を保ち続けています。広重没後160年を記念して開催する本展では、保永堂版「東海道五拾三次之内」や「富士三十六景」など広重の代表作とされる版画とともに、当館が誇る世界有数の肉筆画を一挙公開します。



「王子之三瀧図」歌川広重

企画展

尾形月耕展
—花と美人と歴史浪漫—

前期:9月29日(土)～11月4日(日)
後期:11月8日(木)～12月16日(日)

明治から大正にかけて画家として活躍した尾形月耕(1859-1920)。月耕は師を持たず絵を独学で習得しましたが、江戸から明治にかけての風俗、美人画から故事伝説などを幅広く描き、当時の人々を魅了しました。本展では、青木コレクションを中心に尾形月耕の木版画、弟子の耕漁の能画や同時代の版画作品をご紹介します。



「花美人名所合 堀切の菖蒲」尾形月耕

企画展

抽象芸術へのいざない
—渡辺豊重とそのコレクションから見る色と表現—

12月22日(土)～平成31年2月11日(月祝)

20世紀初頭にヨーロッパで始まった抽象絵画は地域を超えて広がりを見せ、日本においても多くの抽象画家を輩出しました。現代もなお、新しい表現を求めて挑戦を続ける作家が数多くいます。本展では、抽象芸術の第一線で活躍する渡辺豊重の作品を中心に、渡辺自身のコレクションから同時代を生きる芸術家たちの作品をご紹介します。



「ピクニック」渡辺豊重

企画展

近代日本と芸術

2月16日(土)～3月31日(日)

当館が収蔵する青木コレクションは浮世絵とともに川村清雄や久保田米僊の作品等、江戸時代の名残を残しながらも新しい時代に生み出された近代絵画で形成されています。本展では、あまり知られていない米僊の肉筆画と版画を中心に吉田博や徳力富吉郎といった近代の作品をご紹介します。



「琵琶法師図」久保田米僊